

森のわたかな素材を生かして ワクワク体験しよう

山口県 美祢市立 ^{おふく} 於福小学校
6年 山田 将志 山田 裕葵



学校紹介



本校は、1873(明治6)年に開校し、来年は開校140周年を迎える歴史ある学校です。校区は、日本最大のカルスト台地「秋吉台」や、東洋屈指の鍾乳洞「秋芳洞」で知られる、山口県美祢市の北部に位置しています。校区の北東に花尾山、東に台山、西に雁飛山^{がんひさん}を頂き、それらの山々の湧水を源流とする厚狭川^{あさがわ}が校区の中央を南流している、自然豊かな環境にあります。学校林を活用した学習だけでなく、本市の特産品である“サラダハウレン草”を地域の方々に教わりながら、学級園で育てて販売するなど、自然を生かした活動をたくさん行っています。

活動場所

「わんぱく山」と呼ばれる学校林は校舎の南側にあり、どの教室からも見る事ができるほど近くにあります。

休み時間には山に登って遊んだり、理科の授業で草花や昆虫を観察したり、図工の授業で必要な材料を集めたり、クラブ活動で秘密基地を作ったりと、学校生活には欠かせません。

冬が終わる頃には、地域の方々や教職員を中心に、「わんぱく山」の環境整備をしています。



サミットに参加してみよう...

今復の夢・希望・活動計画

これまで様々な活動に取組、多くのことを学んできましたが、その計画・実施にあたっては、地域の指導者の方や教職員が中心になることがほとんどでした。日頃から「わんぱく山」に関わっている子どもたちが、学びたいことを自分たちで探し、学ぶ場所を自分たちで整備していく。そんな「わんぱく山」にしていきたいと思っています。

そのために「わんぱく山活動実行委員会」を作るなど、新たな活動を少しずつ展開していきたいと思っています。





森のゆたかな素材をいかしてワクワク体験しよう

山口県美祢市立於福小学校
6年 山田将志、山田裕葵

1 学校の紹介

於福小学校は、秋吉台や秋芳洞などで有名な山口県美祢市の北部にあります。平成9年(1997年)から学校林を活用した学習が始まり、山口県学校関係緑化コンクールで、毎年 受賞しています。平成23年度には、全日本学校関係緑化コンクールで準特選をいただきました。現在、児童数は48人ですが、学年に関係なく一緒に遊ぶ、仲の良い学校です。



2 活動場所の様子

私たちの学校林は、「わんぱく山」と呼ばれています。校舎の目の前にあり、頂上まで数分の山です。「わんぱく山」には、コナラ・アカガシなど10種類以上の木が生え、オドリコソウなどの花も咲いています。たくさんの野鳥も集まり、そのさえずりが教室まで届いて私たちの心をいやしてくれます。休みの時間の遊び場としてだけでなく、理科や図画工作などの学習でも活用しています。

3 活動の内容や様子

(1) 森林教育活動

生活科や総合的な学習の時間の一環として年2回行われ、指導者の方々に多くのことを教わりながら縦割り班で活動しています。3年間で以下の内容を一通り学べるよう工夫されています。

- ・シダの発見
- ・樹皮のくらべっこ
- ・若葉の観察
- ・冬芽・葉痕の発見
- ・落ち葉のグラデーション
- ・ドングリ探し・ドングリ遊び



(2) 教科学習

生活科では、学校探検の時間に「わんぱく山」を探検したり、秋には「わんぱく山」の落ち葉やドングリで衣装やゲームを作り、秋祭りを開いたりしています。また理科の時間には、季節ごとの動物や植物の様子を観察するために「わんぱく山」を活用しています。図工の時間には、「わんぱく山」の落ち葉や枝・ドングリなどを使って、ミニミニひみつ基地を作りました。



(3) 特別活動

わんぱくクラブは毎年「わんぱく山」を使って活動しています。ひみつ基地を作ったり、枯れ枝や落ち葉で火をおこし、竹筒に入れた米を炊いて「ポンポラ飯」を作ったりしました。こんな楽しい活動ができるので、わんぱくクラブに入りたい人がたくさんいます。



4 今後の活動の夢や希望や活動計画など

今後は、新しいことも学んでみたいと思っています。春に花の観察をした時に、ふだんは気づかなかった花がたくさんあったので、「里山に咲く花」についてもっと詳しく知りたいと思います。また、「わんぱく山」に集まる鳥の名前や鳴き声なども調べてみたいと考えています。さらに、巣箱を作って設置するなど、鳥も住みやすい「わんぱく山」にしたいと思います。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- ① 自然への関心が深まり、観察意欲が高まった。「身近なところにあるのに全然知らないことがたくさんあった」「ふつうに山に登るとじっくり見ながら登るのは違うなと思った」などの意見が見られた。
- ② 自然について多くの知識が身についた。紅葉の仕組みなど、専門的なことも分かった。
- ③ 自然愛護の気持ちが高まった。「木の幹は外側の何 mm かが育つ」と聞き、むやみに木の皮をはいだり傷つけたりしないよう心がけていた。また、ビニールひもは腐らないので自然にとってよくないと聞き、ゴミやひもを拾って持ち帰る意識が高まった。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

- ① 諸行事との関係を考慮しながら、指導者を招いた森林教育活動を行っているが、計画した時期に植物が期待通りの成長をしていないなど、実施内容と時期についての調整が難しい。また、野外活動なので、天候不順時の対応も問題になる。
- ② 長年続いている活動だが、大人がお膳立てした活動になりがちであるため、見直しの時期に来ているかもしれない。子どもの目線（興味）で計画できるような活動を取り入れたい。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

- ① については、その時期に合った指導内容に替えることで対応した。今年の1学期は「若葉の観察」を計画していたが、「里山の花の観察」に変更して実施。子どもたちは、いつも学校林で遊んでいるが、意外に花に気づいておらず、名前や生態を知ることには喜びを感じていた。
- ② については、今後の課題である。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

子どもたちが活動する学校林の維持・管理は、地域の方々がしてくださっているという現状、上記の課題②を鑑みると、子どもたちが、もっと積極的に学校林に働きかけるような活動を行うことが、大切だと思われる。そこで、次のような活動を行うことができればと考えている。

- ・ 子どもたち自身が、山の落ち葉や草取りなどの清掃活動に取り組む。
- ・ 学校林について、もっと詳しく知る ― 学校林に生息する昆虫・鳥など、自分の興味に応じて新たに学ぶ。
- ・ 巣箱の設置など学校林の自然を維持する活動に取組、後輩に受け継いでいく。

山口県 美祢市立 於福^{おふく}小学校

森の命は みんなの宝物 ～屋島の緑から学ぼう～

香川県 高松市立 ^{やしまひがし}屋島東小学校
5年 大澤 愛子 谷本 玖凜



学校紹介

本校は、高松市の東端に位置し、国立公園屋島山麓の東に、南北に広がる自然環境の美しい地域である。全校児童は150名で全員が名前を覚えられる小規模校である。

遠い昔、約800年前にはこの地で源平合戦が繰り広げられ、当時の面影を残す史跡や伝説、史話も数多い。那須与一の扇の的の逸話もその一つである。今も四季折々の果物や野菜を産し、鳥がさえずる等、豊かな自然を残している。

また、昨年の6月には、地域の方と協力して運動場に芝生を植え、今年の5月には、初めて芝生の上での運動会を行った。



活動場所

校区には、歩いて15分程度のところに「源平屋島の森」と、歩いて30分程度のところに「遊々の森」という二つの大きな森がある。

「源平屋島の森」には、全校児童一人一人が「わたしの木」を持ち、その木への願いや思いをプレートに書いてかけている。木の成長を見守り、元気に育てるために、下草刈りをしたり、植樹をしたりして、森を守る活動を行っている。

また、「遊々の森」へは、3・4年生が森林の大切さを学ぶために年数回出かけている。

サミットに参加してみよう… 今復の夢・希望・活動計画

今年度は、「源平屋島の森」で、秋と冬に下草刈りを行い、冬には苗木の補植を行う予定である。また、「遊々の森」へは、4年生が植樹に行く予定である。来年度には、1年生が4月に「わたしの木」を植え、大きく育つようにプレートに願いを書いて、吊す予定である。今後も、自然豊かな校区を守り未来に残していくために、地域と一体になって森林活動を推進していきたいと考えている。また、「だんのうら学習発表会」において、“自然を守ることの大切さ”を地域や家庭に呼びかけていく予定である。

森の命はみんなの宝物 ～屋島の緑から学ぼう～

香川県高松市立屋島東小学校
5年 大澤愛子、谷本玖凜

1 学校の紹介と自慢

屋島東小学校は、全校児童数150名の学校です。学校の位置は、高松市の東の端で、国立公園屋島山麓の東にある自然豊かな学校です。

昨年の6月には地域の方と協力して、運動場に芝生を植え、今年の5月には、初めて芝生の上での運動会を行いました。

遠い昔、約800年前には、源平合戦が繰り広げられ、史跡や伝説も数多くあり、わたしたちの自慢です。また、屋島寺は、四国霊場八十八カ所の札所でもあり、お遍路さんにも出会うことができます。

2 活動していること

校区には、「源平・屋島の森」と「遊々の森」という二つの大きな森があります。

「源平・屋島の森」には、全校児童一人一人が「わたしの木」を持ち、その木への願いや思いをプレートに書いてかけてあります。木が元気に育つように保護者や地域の方と一緒に下草刈りをしたり、植樹をしたりして、森を守る活動をしています。

遊々の森へは、3・4年生が年数回出かけ、森の遊具（ブランコやハンモック）で遊んだり、野草・樹木の名前を覚えたりして自然とふれ合います。4年生は、森林の土と運動場の土を比べる実験をして、森林の土の働きを学習しています。



「木を植えました」



「下草刈りをしました」



「ブランコやターザンロープは楽しいよ」

3 他の学習に生かしていること

毎年行われる「だんのうら学習発表会」では、保護者や地域の方、全校生に、森林のすばらしさを伝えています。

昨年4年生は、「わたしたちの屋島」と題して、屋島の自然の恵みや自分たちの活動をミュージカルに表現しました。

また、森林のめぐみを生活に生かしています。地域のお年寄りの方には、竹箸づくりを教えてくださいました。森林管理事務所の方には、どんぐりや木の枝を使った作品づくりを教わりました。



「土の吸水実験」



「樹木を調べたよ」



「だんのうら学習発表会」



「うちわづくり」

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- ① 実際に森に入って、野草や樹木の名前を調べたり、遊具で遊んだりすることによって森林が身近にあって親しむことのできる場所となっている。
- ② 「運動場の土と森林の土のちがい」を調べる実験を通して 森林の土の凄さや働きを知り、社会科の水源の学習とつないで「森林は緑のダムである」ことの理解に結び付いていた。また、日本の森林率や森林面積の多い都道府県、世界の森林率などについて興味を持ち、本やインターネットで調べていた内容について、森林教室の折に、森林管理事務所の方からクイズ形式で話を聞くことができ、さらに興味を持って調べたり、自分たちにできる活動を考えたりする意欲付けとなっていった。
- ③ 植樹や下草刈りなどの活動を保護者や地域の方と一緒に行うことで、自分たちの地域にある森林を地域全体で守っていこうとする意識が高まっている。また、自分たちの行った活動が地域に役立っているという達成感も味わうことができた。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

2・3年前くらいから、校区内で猿や猪等が頻繁に出没している。今のところ、作物以外の被害は出ていないが、児童だけで森へ入ることは、安全上の問題がある。

従って、放課後や休日などに 自由に森で過ごすことはできないので、どんぐりを休日に拾いに行くときなどは、安全な公園へ行くように指導している。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

森に入っの活動は、必ず、学校の職員、保護者、地域の方、森林管理事務所の方と一緒にするようにしている。

授業では、香川森林管理事務所の方と森林教室を実施している。

休日の下草刈りのボランティア活動も、児童希望者、学校職員、保護者や 地域の方々と森林管理事務所の方で、実施するようにしている。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

今年度は、「源平屋島の森」で秋と冬に下草刈りを行い、冬には苗木の補充を行う予定である。「遊々の森」へは4年生が植樹に行く予定である。来年度に、1年生が4月に「わたしの木」を植え大きく育つように、プレートに願いを書いてつるす予定である。今後も、自然豊かな校区を守り、未来に残していくため、地域と一体になって森林を育て守る活動を推進していきたいと考えている。

また、「だんのうら学習発表会」において、自然を守ることの大切さを、家庭や地域に呼びかけて行く予定である。